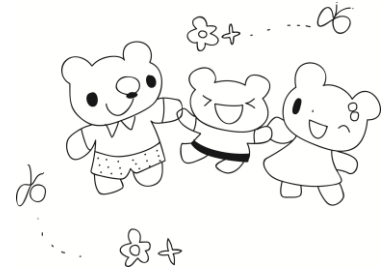


⑨ まんせいじんふぜん 慢性腎不全 ふくまくとうせき (腹膜透析、じんいしょく 腎移植)



〜〜〜どんな病気？〜〜〜

腎臓の持つ最も大切なはたらきである、老廃物を尿中に捨てる力（腎機能）が低下している状態を腎不全といい、それが一時的なものでなく、正常に戻らない状態を慢性腎不全といいます。

〜〜〜慢性腎不全になる病気はなに？〜〜〜

慢性腎不全になるお子さんのほとんどは生まれつきの病気であることが多く、そのうち約半数が腎臓のかたちや大きさに異常がある（先天性腎尿路異常）お子さんです。他にも、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群、新生児期のショックに伴うものなどがあります。

〜〜〜どんな症状がおこるの？〜〜〜

疲れやすい・食欲がないなどに加えて、成長ホルモンの相対的不足による低身長、赤血球を作るエリスロポエチン低下による貧血、ビタミンD不足や副甲状腺ホルモン高値により骨が弱くなり手や足の骨が曲がってしまう骨の合併症、などがあります。他にも高血圧、血液の酸性化（アシドーシス）、高カリウム血症、高尿酸血症などもみられます。これらの症状は腎不全の症状の進行とともにゆっくり出てきます。

〜〜〜どんな治療をするの？〜〜〜

進行中の腎不全では、食事の制限（水分や塩分、蛋白、カリウム、リンなどの制限）や内服薬・注射薬などで体のバランスを整えます。しかし末期腎不全になるとこれらの治療ではコントロールできず、腎臓のはたらきの代わりにする治療（腎代替療法）に移ります。腎代替療法には、透析と移植があります。

透析：子どもは体格が小さく、大人で行われる血液透析よりも、腹膜透析が選ばれることが多いです。腹膜透析は手術で入れたカテーテルを使って透析液をおなかの中に入れて、腸をおおっている腹膜を介して老廃物を体の外へ捨てる方法で、水分や電解質のバランス異常を改善します。自宅で毎日できることが特徴で、機械を用いて夜間寝ている間に自動で透析を行う方法もあります。

移植：ほかの人からもらった腎臓を手術で入れる治療です。子どもでは親御さんなどからもらう生体腎移植が多いです。移植した腎臓が体内でしっかりと働けるように、免疫抑制剤を数種類、長期間内服していきます。

〜〜〜園生活ではどのように注意したらいいの？〜〜〜

進行中の腎不全では、園生活にほとんど制限ありませんが、お子さんの状態に応じて前述の食事制限が加わることがあります。腹膜透析をしているお子さんはおなかに透析カテーテルを入れているため、その部分を圧迫・打撲するような鉄棒やマット運動、ドッジボール、サッカーなどは避ける必要があります。また、細菌がカテーテルに入り込まないようにプールも避けたほうが良いでしょう。腎移植をしたお子さんでは下腹部に移植した腎臓が入っています。これを守るため、やはり腹膜透析と同じ注意が必要です。また、内服している免疫抑制剤により感染症にかかりやすくなっており、インフルエンザや胃腸炎などが園内で流行しているようであれば登園を慎重に判断する必要があります。とくに水ぼうそうや麻疹（はしか）にかかると重症になりやすいので、主治医と相談して下さい。